

緑地を楽しむ本

『まちぼうけの生態学 アカオニグモと草むらの虫たち』

たくさんのふしぎ傑作集

遠藤知二・文 岡本よしろう・絵 福音館書店



作者の遠藤知二さんは陸上節足動物を対象に、生物多様性を保全するための基礎として生態、行動を研究する生態学者。

彼の著作の「たくさんのふしぎ」には本書、「おいかけっこの生態学 キスジベッコウと草

むらのオニグモたち」、「すれちがいの生態学 キオビベッコウと小道の虫たち」の三部作がある。

どれも面白いのだが、私は本書を一押しする。アカオニグモの網のそばをどれくらいの虫が通り過ぎ、何匹くらいが網に引っかかるのか。引っかかる虫の数は驚くほど少ない。クモは空腹に長時間耐えられるのだそうだ。テントウムシがやっと引っかかって糸でぐるぐる巻きにしても、防御手段を使って逃げられてしまった。

アカオニグモの獲物や、食べ残しを食べて生きる虫もいる。虫たちの生きる姿は哺乳類の狩をする光景にも勝るとも劣らないだろう。小さいけれど、生命の不思議さを改めて感じさせてくれる。

(齋藤好子)